

(4) 障害者雇用における事業所と関係機関の連携状況

ア 募集・採用する際の連携状況

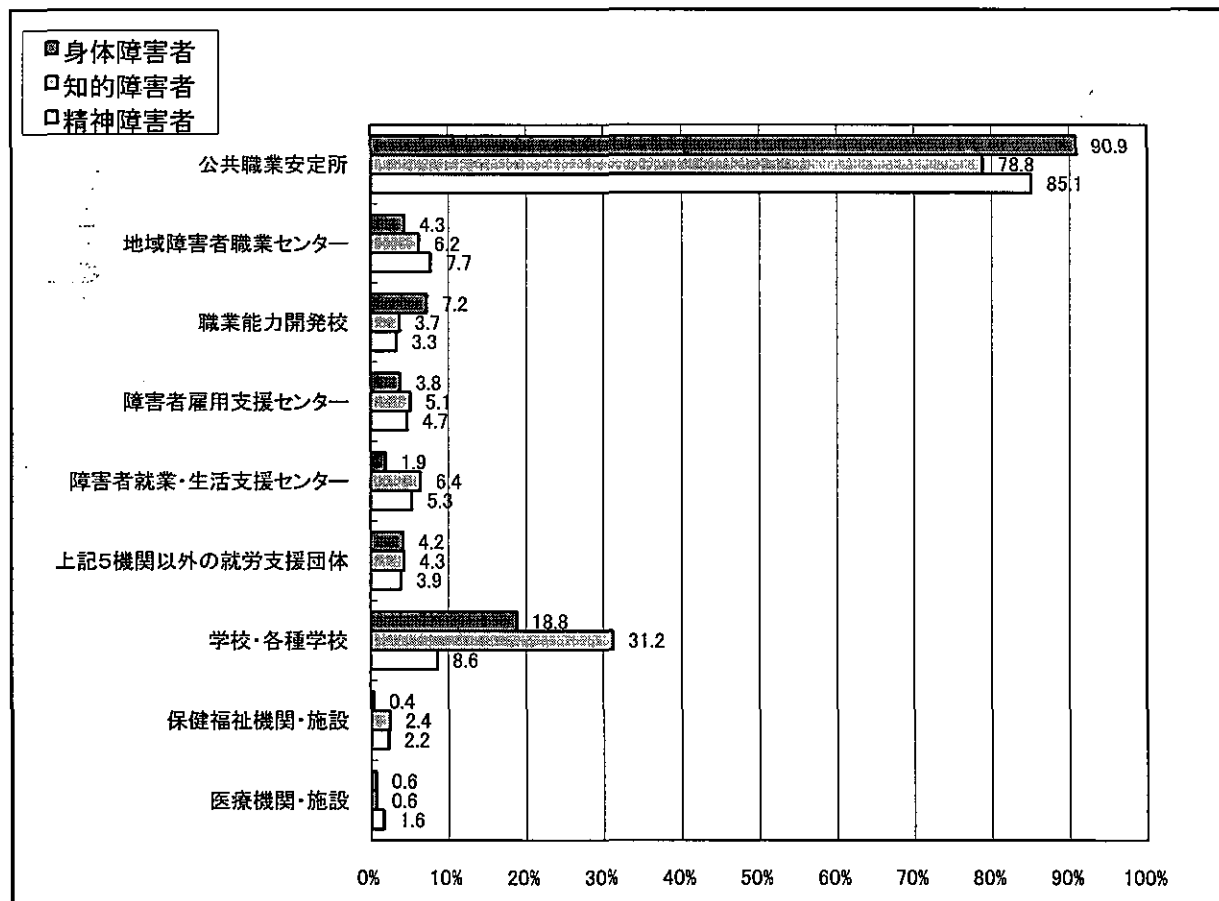
身体障害者を募集・採用する際に、関係機関を利用したり、又は協力を求めたことのある事業所は、全体の40.4%であり、利用している事業所の連携先をみると、公共職業安定所が90.9%、次いで、学校・各種学校が18.8%となっている。

知的障害者を募集・採用する際に、関係機関を利用したり、又は協力を求めたことのある事業所は、全体の22.1%であり、利用している事業所の連携先をみると、公共職業安定所が78.8%、次いで、学校・各種学校が31.2%となっている。

精神障害者を募集・採用する際に、関係機関を利用したり、又は協力を求めたことのある事業所は、全体の12.4%であり、利用している事業所の連携先をみると、公共職業安定所が85.1%、次いで、学校・各種学校が8.6%となっている。

図4-4 募集・採用する際の事業所と関係機関の連携状況

(複数回答：2つまで)



イ 雇用継続、職場定着における連携状況

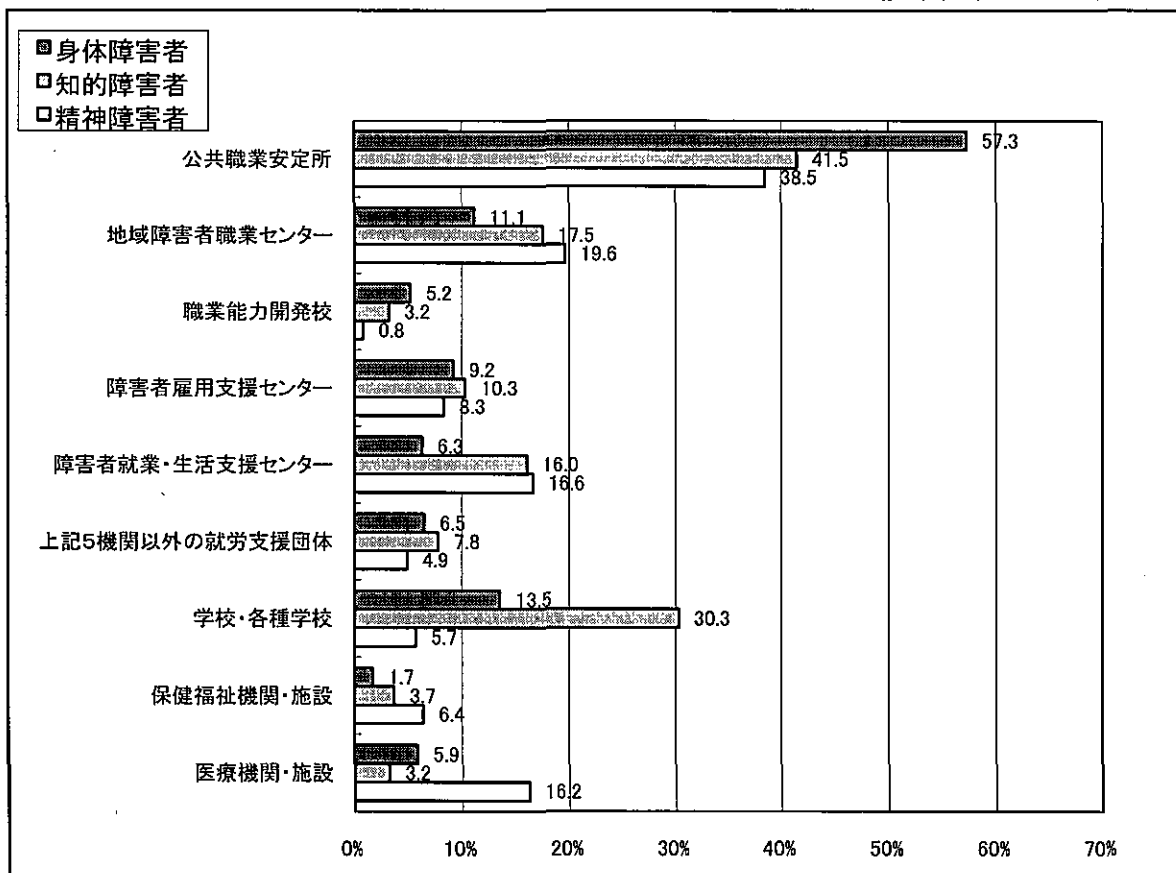
身体障害者の雇用継続、職場定着において、関係機関を利用したり、又は協力を求めたことのある事業所は、全体の14.7%であり、利用している事業所の連携先をみると、公共職業安定所が57.3%、次いで、学校・各種学校13.5%となっている。

知的障害者の雇用継続、職場定着において、関係機関を利用したり、又は協力を求めたことのある事業所は、全体の11.1%であり、利用している事業所の連携先をみると、公共職業安定所が41.5%、次いで、学校・各種学校が30.3%となっている。

精神障害者の雇用継続、職場定着において、関係機関を利用したり、又は協力を求めたことのある事業所は、全体の5.3%であり、利用している事業所の連携先をみると、公共職業安定所が38.5%、次いで、地域障害者職業センターが19.6%となっている。

図4-5 雇用継続・職場定着における事業所と関係機関の連携状況

(複数回答：2つまで)



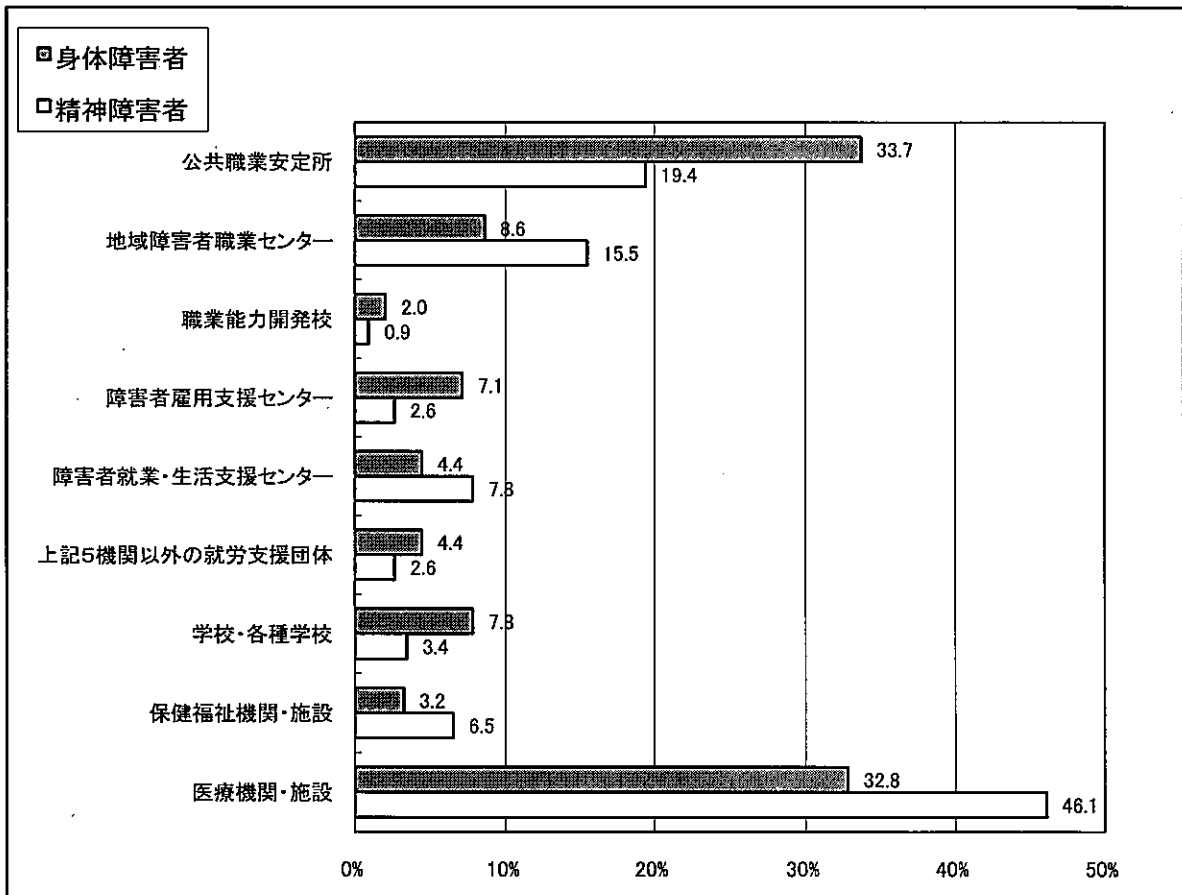
ウ 職場復帰における連携状況

採用後に身体障害者となった従業員の職場復帰において、関係機関を利用したり、又は協力を求めたことのある事業所は、全体の 8.0%であり、利用している事業所の連携先をみると、公共職業安定所が 33.7%、次いで、医療機関・施設が 32.8%となっている。

採用後に精神障害者となった従業員の職場復帰において、関係機関を利用したり、又は協力を求めたことのある事業所は、全体の 4.6%であり、利用している事業所の連携先をみると、医療機関が 46.1%、次いで、公共職業安定所が 19.4%となっている。

図 4-6 職場復帰における事業所と関係機関の連携状況

(複数回答：2つまで)



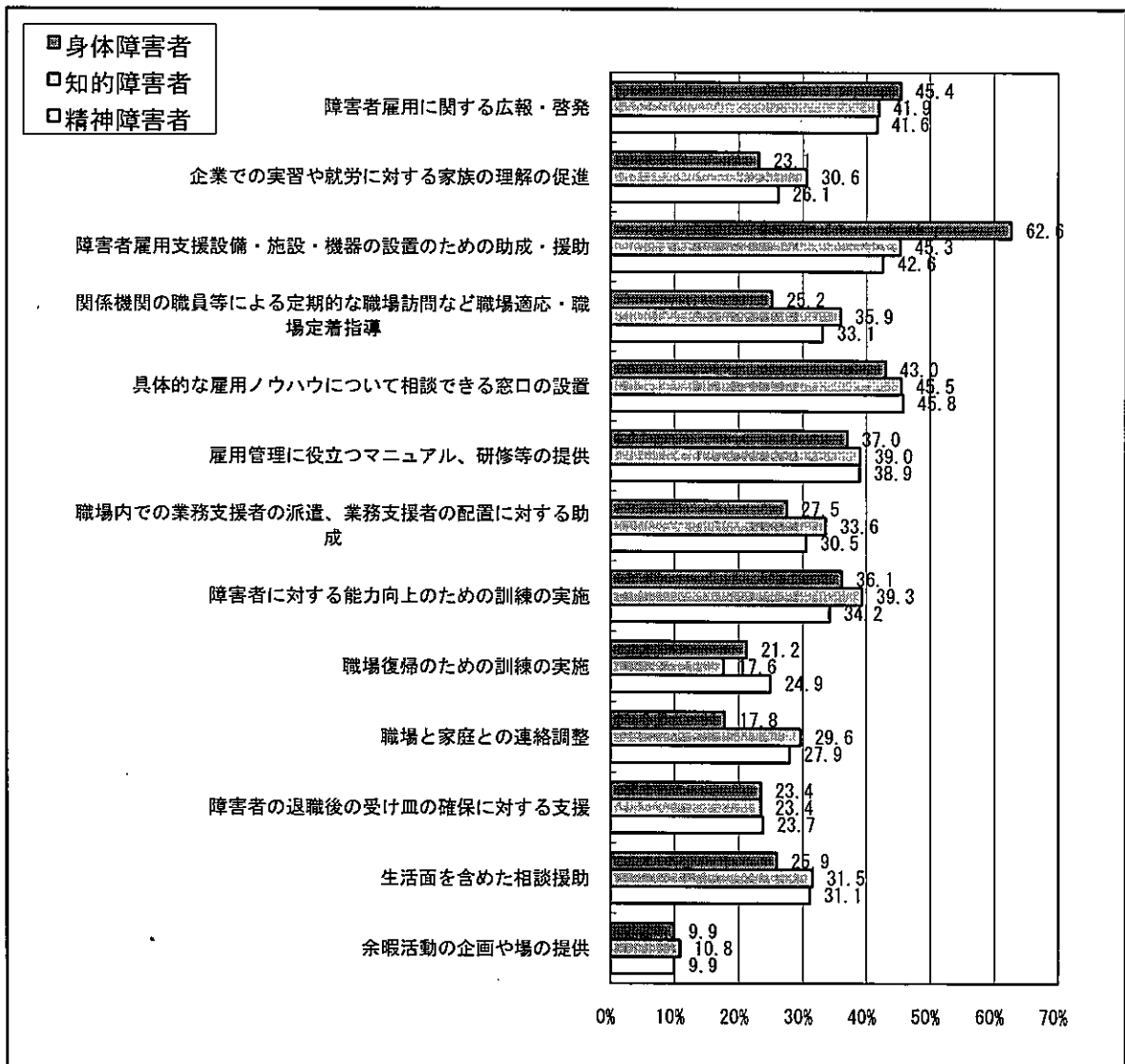
(5) 関係機関に期待する取組み

身体障害者を雇用する上で関係機関に期待する取組みとしては、「障害者雇用支援設備・施設・機器の設置のための助成・援助」が62.6%、次いで「障害者雇用に関する広報・啓発」が45.4%、「具体的な雇用ノウハウについて相談できる窓口の設置」が43.0%となっている。

知的障害者を雇用する上で関係機関に期待する取組みとしては、「具体的な雇用ノウハウについて相談できる窓口の設置」が45.5%、次いで「障害者雇用支援設備・施設・機器の設置のための助成・援助」が45.3%、「障害者雇用に関する広報・啓発」が41.9%となっている。

精神障害者を雇用する上で関係機関に期待する取組みとしては、「具体的な雇用ノウハウについて相談できる窓口の設置」が45.8%、次いで「障害者雇用支援設備・施設・機器の設置のための助成・援助」が42.6%、「障害者雇用に関する広報・啓発」が41.6%となっている。

図4-7 関係機関に期待する取組み（複数回答）



II 個人調査

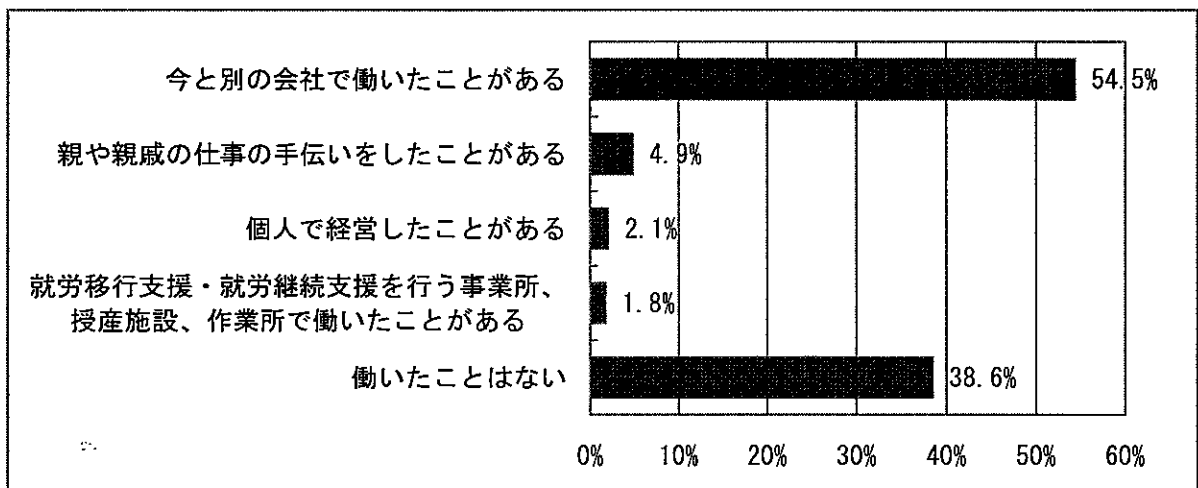
1 身体障害者

事業所調査の対象事業所に雇用されている障害者のうち、身体障害者 12,393 人から得た回答に基づいて集計を行った。

(1) 就職する前の状況

現在の会社に入る前に障害者となった人の、現在の会社に就職する前の状況について、「今と別の会社で働いたことがある」と回答した者は 54.5%であり、平均転職回数は、2.3 回である。

図 5-1 就職する前の状況（複数回答）



(2) 前職の離職理由

転職経験者の現在の勤め先に転職する直前の職場を離職した理由については、個人的理由が 65.9%と最も多く、その主な理由としては、「賃金、労働条件に不満」が 23.0%と最も多く、次いで「職場の雰囲気・人間関係」が 20.3%となっている。

図 5-2 離職経験者の前職の離職理由

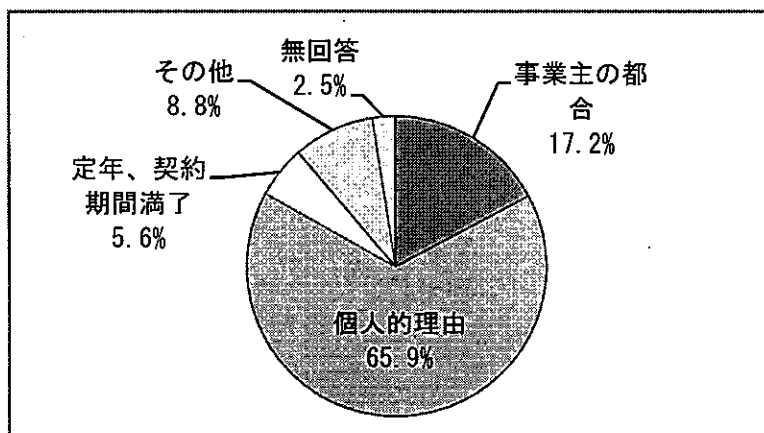
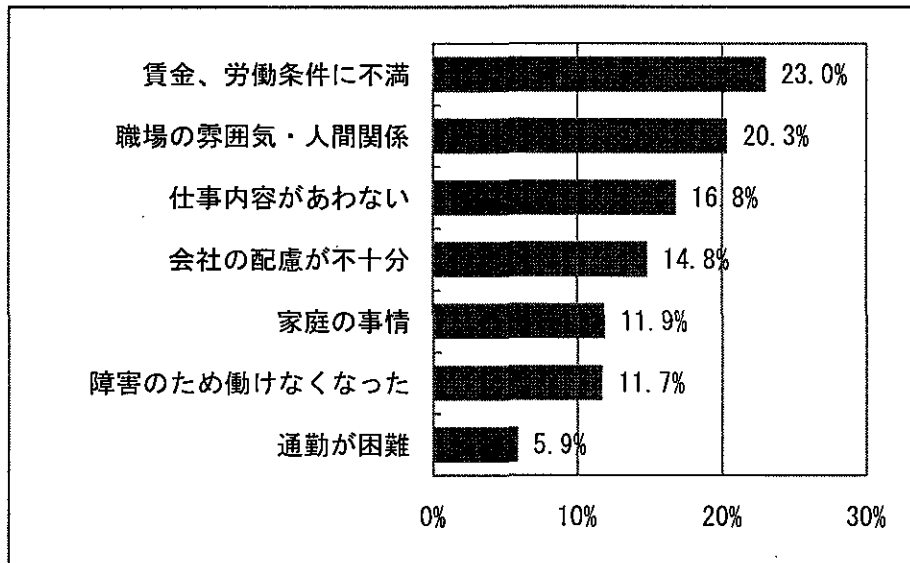


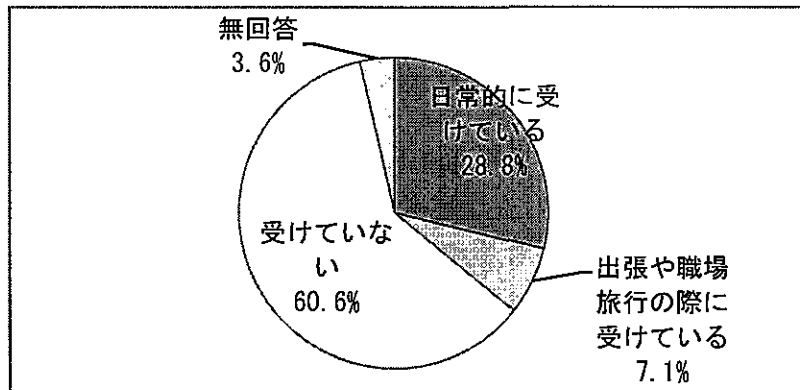
図5-3 個人的理由の具体的な内容（複数回答）



(3) 同僚からの援助

職場の同僚からの障害に配慮した援助については、「障害があるための援助は受けていない」が60.6%と最も多く、日常的に援助を受けている人は28.8%となっている。

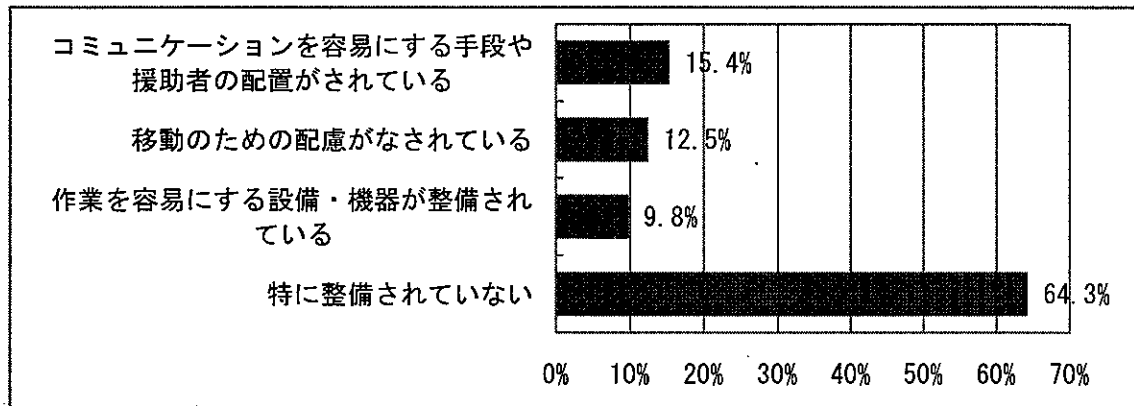
図5-4 職場における障害に配慮した援助



(4) 職場における施設・設備等の整備

職場で障害に配慮した施設・設備・機器の整備がなされているかについては、「特に整備されていない」と回答した者が64.3%となっている。

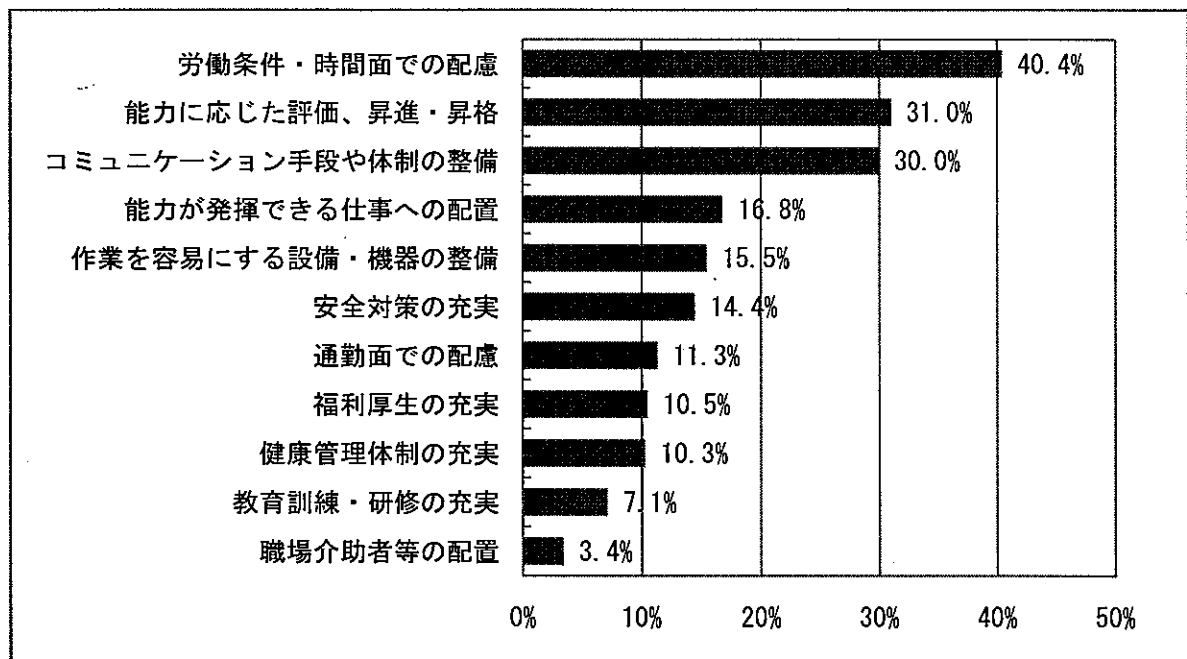
図5-5 職場における施設・設備・機器の整備状況（複数回答）



(5) 職場における改善等が必要な事項

現在の会社で仕事を続けていく上で、何らかの改善・充実・整備が必要と回答した者は、40.2%である。そのうち、改善・充実・整備が必要と思われる事項としては、「労働条件・時間面での配慮」(40.4%)、「能力に応じた評価、昇進・昇格」(31.0%)、「コミュニケーション手段や体制の整備」(30.0%)が順に多くなっている。

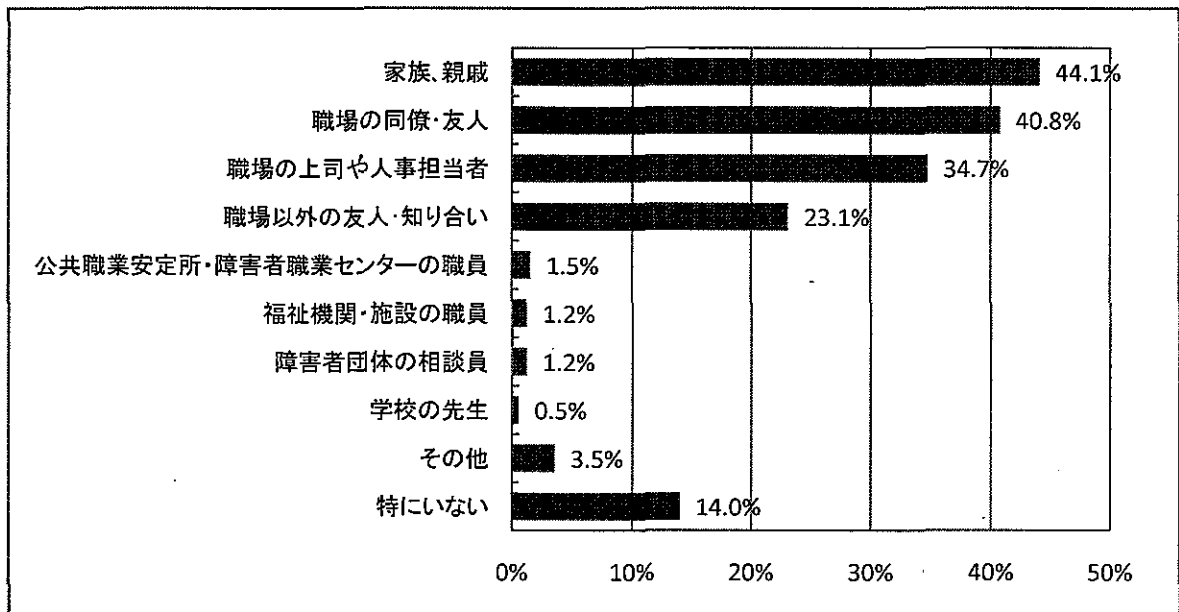
図5-6 改善等が必要な事項（複数回答、2つまで）



(6) 仕事に関する相談相手

仕事や職場に関して悩みや不安を抱いた時の主な相談相手については、「家族・親戚」(44.1%)、「職場の同僚・友人」(40.8%)、「職場の上司や人事担当者」(34.7%)が順に多くなっている。

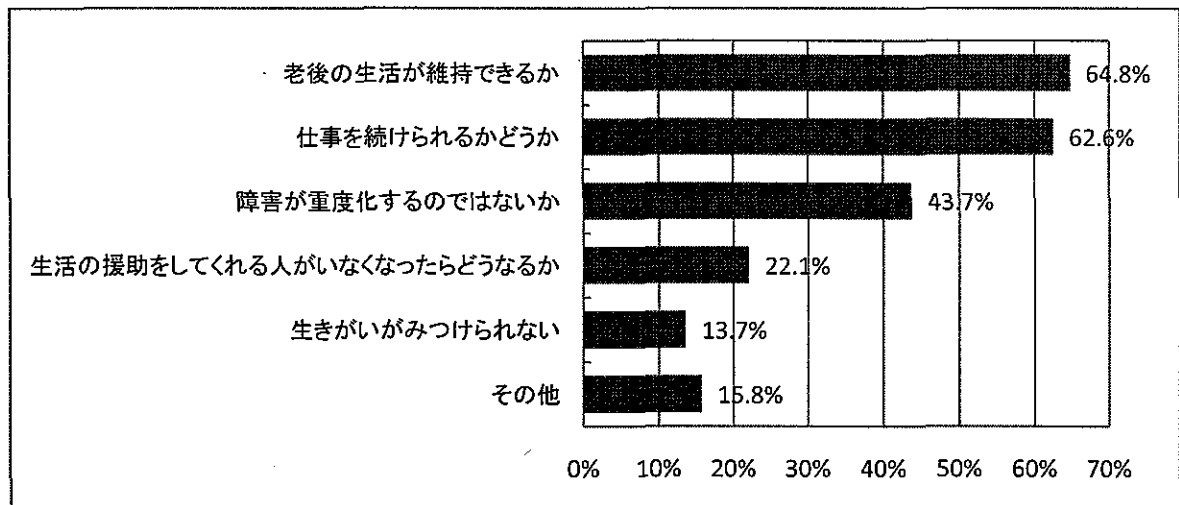
図5-7 仕事に関する相談相手（複数回答、2つまで）



(7) 将来への不安

将来に対する不安について、「ある」と回答した者は70.4%である。そのうち、不安に思っている事項としては、「老後の生活が維持できるか」(64.8%)、「仕事を続けられるかどうか」(62.6%)が順に多くなっている。

図5-8 将来への不安（複数回答）



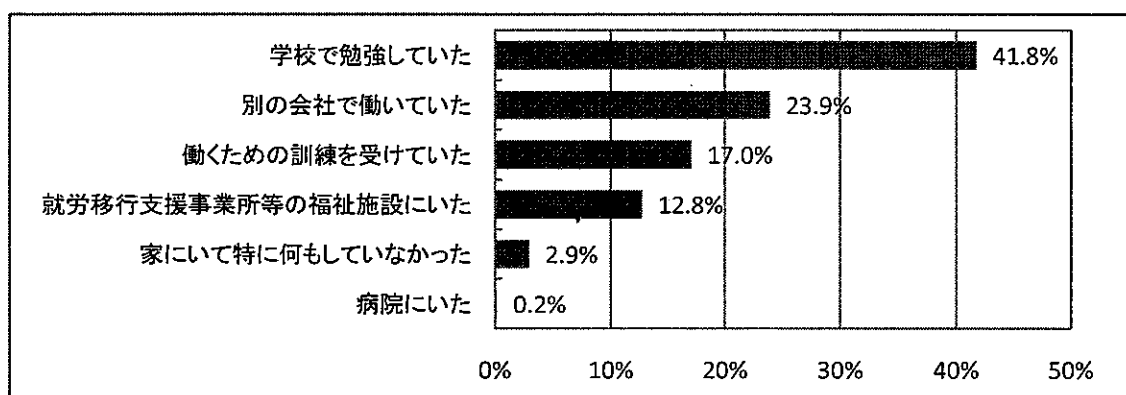
2 知的障害者

事業所調査の対象事業所に雇用されている障害者のうち、知的障害者 1,678 人から得た回答に基づいて集計を行った。

(1) 就職する前の状況

現在の会社に入る前の状況については、「学校で勉強していた」(41.8%)、「別の会社で働いていた」(23.9%)が順に多くなっている。

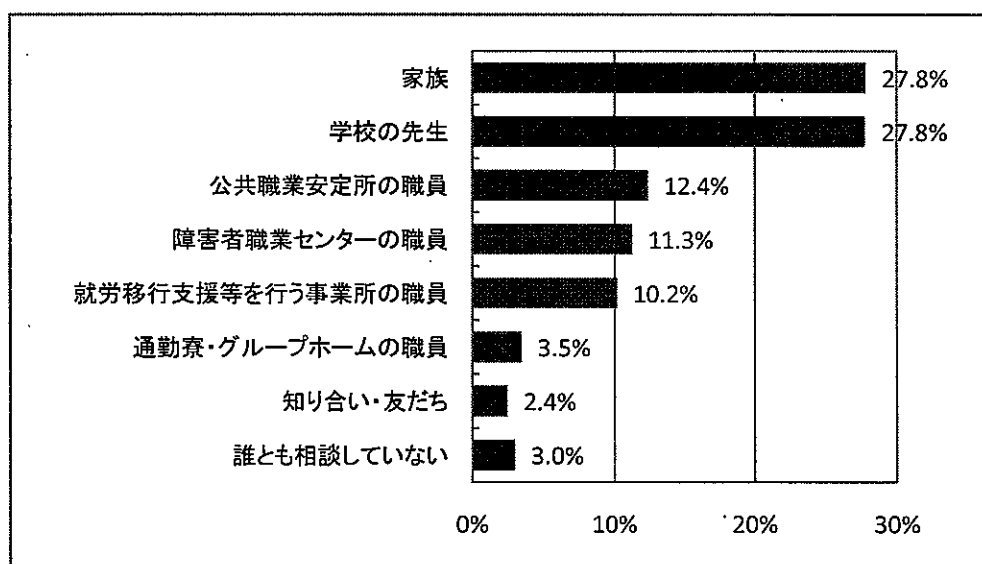
図6-1 就職する前の状況



(2) 就職にあたっての相談相手

現在の会社に就職する際の主な相談相手については、「家族」「学校の先生」が 27.8%で最も多く、次いで公共職業安定所 (12.4%) が多くなっている。

図6-2 就職にあたっての相談相手

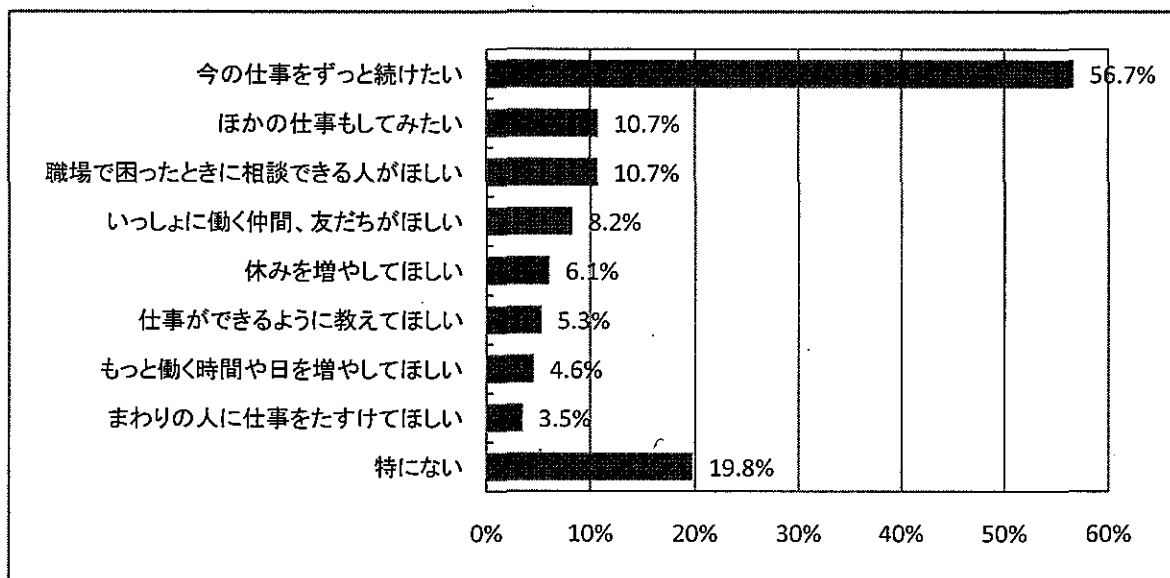


(3) 職場での要望事項

現在の職場での要望事項については、「今の仕事をずっと続けたい」(56.7%)

が最も多く、次いで「ほかの仕事もしてみたい」(10.7%)、「職場で困ったときに相談できる人がほしい」(10.7%)となっている。

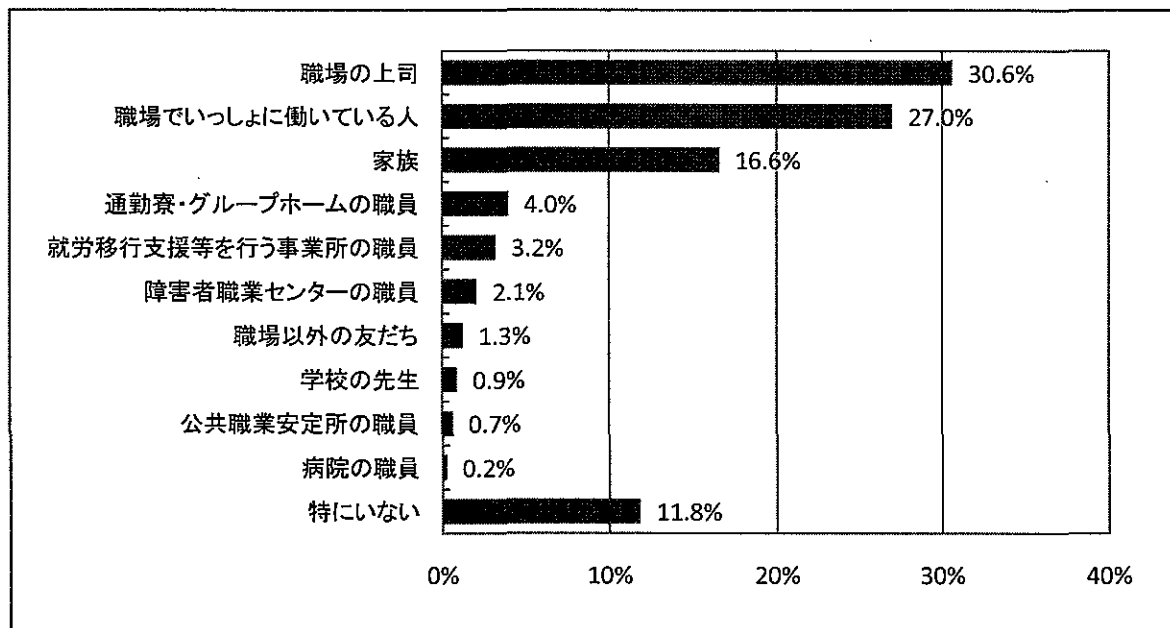
図6-3 職場での要望事項(複数回答)



(4) 職場で困ったときの相談相手

職場で困ったときの主な相談相手については、「職場の上司」(30.6%)、「職場でいっしょに働いている人」(27.0%)が順に多くなっている。

図6-4 職場で困った時の相談相手

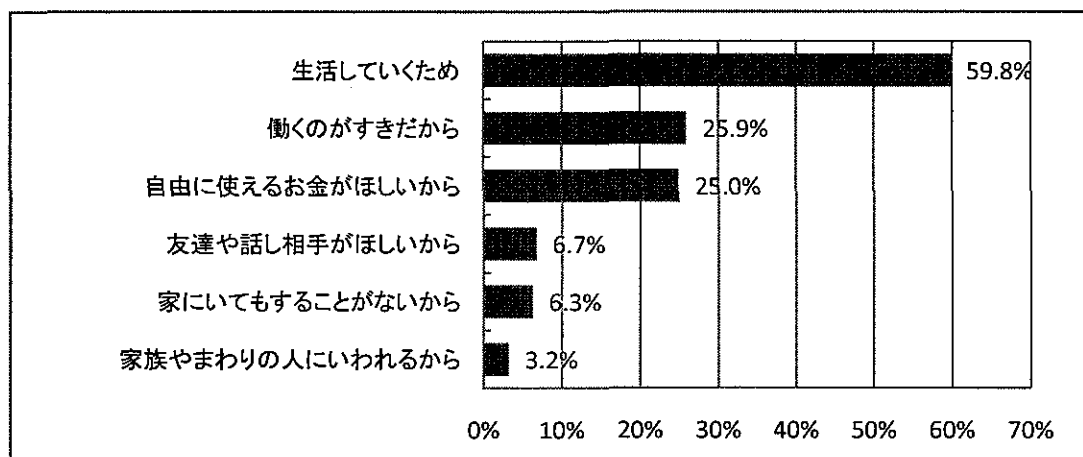


(5) 仕事をする理由

仕事をする理由については、「生活をしていくため」(59.8%)が最も多く、次

いで「働くのが好きだから」(25.9%)、「自由に使えるお金がほしいから」(25.0%)が多くなっている。

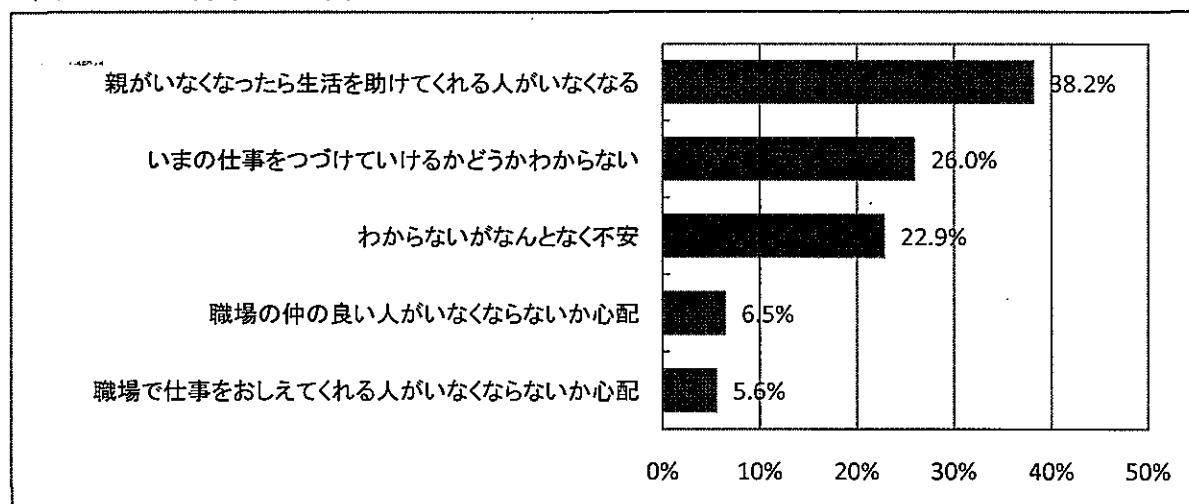
図6-5 仕事をする理由(複数回答)



(6) 将来への不安

将来に対する不安について、「ある」と回答した者は53.3%である。その理由としては、「親がいなくなったら生活を助けてくれる人がいなくなる」(38.2%)、「いまの仕事をつづけていけるかどうかわからない」(26.0%)が順に多くなっている。

図6-6 将来への不安



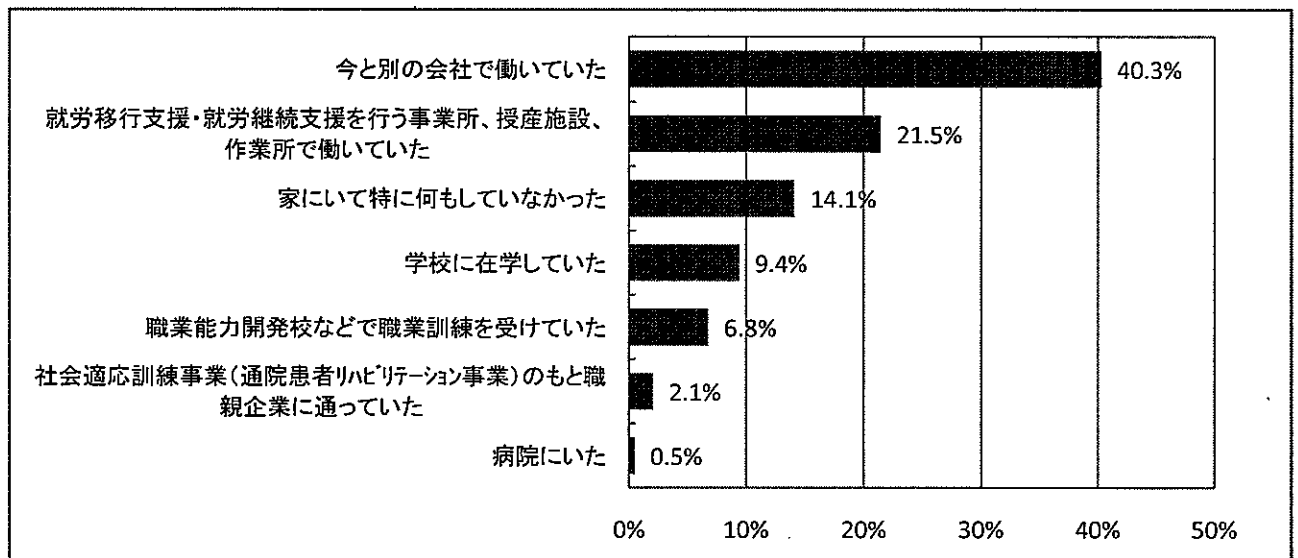
3 精神障害者

事業所調査の対象事業所に雇用されている障害者のうち、精神障害者 311 人から得た回答に基づいて集計を行った。

(1) 就職する前の状況

現在の会社に入る前に精神疾患であると診断を受けた人の、現在の会社に就職する前の状況について、「今と別の会社で働いていた」と回答した者は 40.3% である。

図 7-1 就職する前の状況



(2) 前職の離職理由

転職経験者の現在の勤め先に転職する直前の職場を離職した理由については、個人的理由が 61.0% と最も多く、その主な理由としては、「職場の雰囲気・人間関係」が 33.8% と最も多く、次いで「賃金、労働条件に不満」(22.1%)、「疲れやすく体力、意欲が続かなかった」(20.8%) が多くなっている。

図 7-2 前職の離職理由

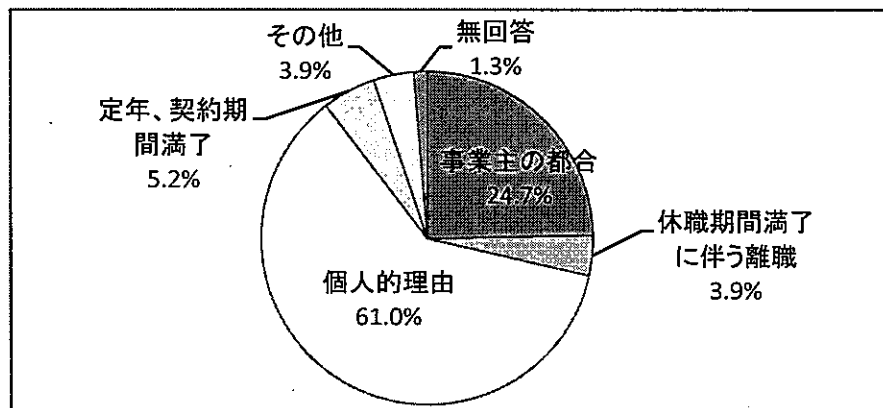
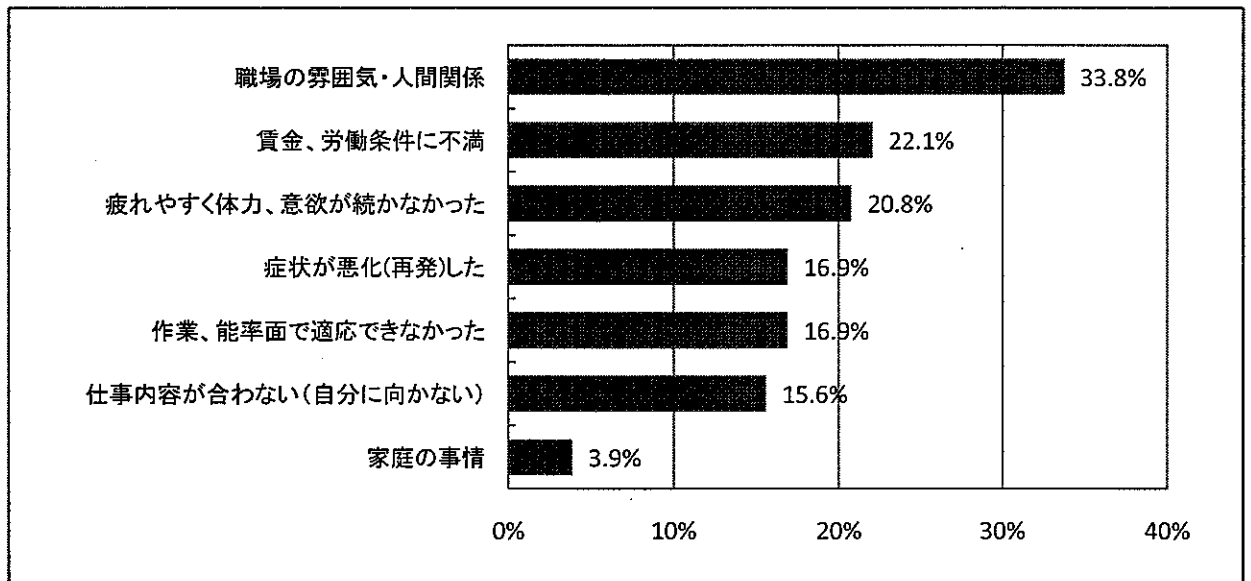


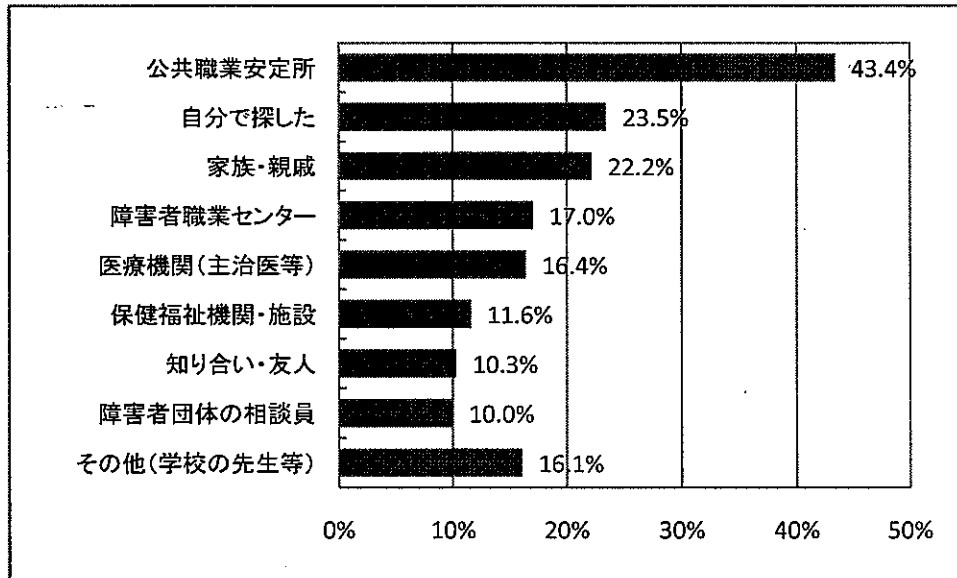
図7-3 個人的理由の具体的な内容（複数回答）



(3) 就職に際しての相談先

就職に際しての相談先については、「公共職業安定所」が43.4%と最も多く、次いで「自分で探した」が23.5%となっている。

図7-4 就職に際しての相談先（複数回答）



(4) 職場における障害に配慮した援助

職場において障害に配慮した援助を受けているかについては、「援助を受けている」と回答した者が67.5%となっている。

援助を受けている人のうち、職場で配慮されている事項としては、「調子の悪い時に休みを取りやすくする」(55.7%)が最も多く、次いで「短時間勤務など労働時間の配慮」(45.7%)、「通院時間の確保、服薬管理など医療上の配慮」